

GIGA 端末の持ち帰りについて

本校では、これまで「かわさき GIGA スクール構想」（裏面参照）に則り、G I G A 端末を活用しての学習推進を行ってまいりました。今後より一層活用を広げるために、家庭への持ち帰りを行っていきます。当面の間は、平日の放課後のみの持ち帰りを行います。充電器の持ち帰りはいたしません。端末は翌日学校に持たせてください。また、ご家庭でお子さんがどのように使っているのかを一緒に見たり、学校での活用の様子を聞いたりしていただくとありがたいです。

お子様が安心安全に G I G A 端末を活用するために、次のことについてご理解、ご協力をお願いいたします。

<持ち帰りの際の主な活用例>

- ・クラスルームを立ち上げて、明日の予定の確認をする。
 - ・ドリルパークに取り組む。※4年生以上は学習状況調査の結果からお子さんに応じた課題に取り組むことができます。その場で答え合わせもできるので間違えたときにすぐに振り返ることができます。
 - ・動画（NHK for school）を見て感想をまとめる。
- ※学年に応じて活用方法は異なります。

<持ち帰りの際の注意点>

●使用できる時間が決まっています

川崎市では GIGA 端末でインターネットを利用できる時間帯を各校種ごとに制限しています。小学校は6時～22時に利用することができます。

●保護者の方でもお子さんのアカウントに勝手にログインすることはできません

どうしてもお子さんのドライブ内を確認するなど必要が生じた場合は、本人の同意を得た上で、本人の操作の上でログインし、一緒に確認していくことが基本です。

●破損や紛失について

以下の破損については、補償対象外となる可能性が高いので注意が必要です。

- ①水没（飲み物をこぼすなど）
- ②故意による破損（投げつけるなど）

※USB差し込み口に鉛筆を差し込み、GIGA 端末を破損したり、火傷をしたりということがあるとのこと
で、「USB差し込み口キャップ」が配付されています。キャップをしたままお使いください。

※紛失は、補償の対象外となるだけでなく、セキュリティ事故にもなります。十分お気をつけください。

※充電器の紛失も、端末と同様補償対象外です。

●インターネットの閲覧履歴は削除できないように設定されています

G I G A 端末は学習に活用するものです。閲覧履歴はプライバシーに関わることですが、何かあったときに確認できるように川崎市では閲覧履歴が削除できないように設定しています。ご了承ください。

★インターネットトラブルから子どもたちを守り、端末を有効活用するために、ご家庭でも情報モラルについて話題にしてください。

川崎市教育委員会から「川崎市版保護者向けインターネットガイド（リーフレット）」が公開されています。スマートフォンやSNSの急激な普及に伴い、これらの利用に伴うトラブルが低年齢化している現状があります。ホームページ上でリーフレットを見ることができますので、よくお読みになり、ぜひお子様と次の「家庭のルール作り3つのポイント」について話合いや確認をしていただきたいと思います。

- ①本当に機器が必要なのか一緒に考える
- ②利用の約束・わが家のルールを一緒に考える（便利に使うルールも）
- ③意識して日頃からインターネットの話をする（守られているかを確認する）また、

文部科学省「情報モラル学習サイト」では、写真やイラスト、動画を見ながら問題に答えることで情報モラルについて学べます。活用場面ごとに、それぞれ5～10分ほどです。ぜひ一度お子様と、一緒に挑戦してみてください。

かわさき GIGA スクール構想

未来社会の創り手を育て かわさきの新しい教育

キーワードは「つながる」



ステップ3 各教科等の学びが、他教科等や生活につながることで、社会課題の解決や一人一人の夢の実現に活かす

各教科等の学びをつなぎ、探究し、課題を解決できる

自主・自立

探究し、課題を解決できる

共生・協働

様々な人と共に学び合い、社会課題を解決する中で、自分自身について考える

かわさき GIGA スクール構想では、インターネットにつながる中で、個別学習でも協働学習でも一斉学習でも、クラウドによって学びを蓄積したり、双方向の学びを可能にしたことにより、かわさき教育プランの基本目標である「自立・自律」「共生・協働」を推進します。既習や他教科の基礎として、ステップ3につながる「つながる」をキーワードに、「情報活用能力」を基礎として、ステップ1、ステップ2、ステップ3と段階的に学びを変容させていきます。1人1台の端末を通して様々な人、もの、こととつながる中で、未来社会の創り手となる子どもたちに必要な力が育まれています。

使用する端末は、使いやすいと合わせて、小・中学校（特別支援学校を除く）が Chromebook、特別支援学校が iPad です。どちらもクラウドサービスである G Suite for Education を活用します。

授業や研修にも活用できる働き方改革にもつながる

ノートを集めなくても教師用端末で子どもたちの学びをいつでも確認できる。クラウドに保存したデータを教職員間で共有したり、自動採点機能を活用し、より、授業の効率化を図る。オンラインで研修もできる。

小・中学校の1人1台の端末は Chromebook

様々なコンテンツがクラウドで様々なコンテンツが利用可能

1つのIDとパスワードで様々なコンテンツが利用可能

児童生徒が画面を共有して協働学習が可能

教材配布・回収が簡単にできる。

【新学習指導要領に対応のドリルコンテンツ】

毎日の「繰り返し学習」や「家庭学習」は自分のペースで学習ができる。自動採点機能があり、先生の負担が減る。

こんなことありませんか… GIGA で解決できるかも

①大量のノートのチェックや、ドリルの採点…とにかく時間がかかる…

②発言する子の考えしか見取れない。他の子たちの考えは…

③前回使ったプリントを忘れてしまったら授業に追加できない子がいる…

④⑤⑥はどのように解決されるのか…、リフレットが深く掘り出してみてください。



他にもインターネット検索、カメラやQRコード読み取り等、様々な機能で子どもの学びをサポート、起動がとっても速く、スムーズに学習ができる。

小・中学校の1人1台の端末は Chromebook

様々なコンテンツがクラウドで様々なコンテンツが利用可能

1つのIDとパスワードで様々なコンテンツが利用可能

児童生徒が画面を共有して協働学習が可能

教材配布・回収が簡単にできる。

【新学習指導要領に対応のドリルコンテンツ】

毎日の「繰り返し学習」や「家庭学習」は自分のペースで学習ができる。自動採点機能があり、先生の負担が減る。

ステップ2 既習や他者につながることで、主体的・対話的で深い学びの観点からの授業改善ができ、資質・能力をより確実に育成する

対

主

深

即時

形成

モニタリング機能により一人一人の考えを即時的に見取り、形成的評価ができる

クラウドに蓄積した学びを対話の場や授業に活用し、関係付けてより深く理解したり、情報を探し、考えを形成したりする。

クラウドを通して、子ども同士の対話が活性化し、教員や地域の先生、教員と生徒の対話の場が広がり、500以上の対話が行われる。

制作の様子を録音し、再生して発表することで、自分の考えを客観的に振り返り、学習における見直しや目標設定をする。

外国語発表の様子を録音し、再生して発表することで、自分の考えを客観的に振り返り、学習における見直しや目標設定をする。

理科観察、実験を動画で記録することで、繰り返し振り返りながら、現象や科学的考察と比較して、考察を深める。

授業改善のヒント

ステップ3 各教科等の学びが、他教科等や生活につながることで、社会課題の解決や一人一人の夢の実現に活かす

各教科等の学びをつなぎ、探究し、課題を解決できる

自主・自立

探究し、課題を解決できる

共生・協働

様々な人と共に学び合い、社会課題を解決する中で、自分自身について考える

授業改善のヒント

ステップ1 インターネットにつながることで、「いつでもどこでも」どの教科でも「使える」ことを実感する

いつでもどこでも学べることができる

自分のペースに応じた個別学習ができる

一斉学習の場面でも双方向の学びができる

文章やプレゼンテーションの作成ができる

検索サイトを活用した調べ学習ができる

Google の検索サイトでインターネット検索し、新聞記事や動画等を取りまとめ、整理する。情報はクラウドに保存し、いつでも必要に応じて取り出せる。

ドリルコンテンツを活用し個別学習をする。即時に採点され、自分のペースで学習でき、先生は進捗状況を確認することができ、多様な子どもたちに対してきめ細やかな対応を行う。

メールがやり取りできるデジタル教材を提示する。(大型テレビだけでなく個々の端末にも表示)授業交流コンテンツで一人一人の反応や考えを即時に把握しながら、双方向に授業を進める。

ドキュメントで自分の考えをまとめ、スライドでプレゼンテーションを作成し、リアルタイムで考えを共有しながら学び合う。

臨時休業中のオンライン指導によって学習記録や進捗状況の把握、心のケアを行う。

ICT環境が変わっても、「主体的・対話的で深い学び」や個別に合わせた細やかな指導など、これまでの教育実践で大切にしていたことは何ら変わらないことがありま。ICTを「ミソ」にせず、

「何を」創ることに注力すること、さらに授業改善を図ること、また、ICTを「ミソ」にせず、

ICT環境が変わっても、「主体的・対話的で深い学び」や個別に合わせた細やかな指導など、これまでの教育実践で大切にしていたことは何ら変わらないことがありま。ICTを「ミソ」にせず、

「何を」創ることに注力すること、さらに授業改善を図ること、また、ICTを「ミソ」にせず、

ICT環境が変わっても、「主体的・対話的で深い学び」や個別に合わせた細やかな指導など、これまでの教育実践で大切にしていたことは何ら変わらないことがありま。ICTを「ミソ」にせず、

「何を」創ることに注力すること、さらに授業改善を図ること、また、ICTを「ミソ」にせず、

ICT環境が変わっても、「主体的・対話的で深い学び」や個別に合わせた細やかな指導など、これまでの教育実践で大切にしていたことは何ら変わらないことがありま。ICTを「ミソ」にせず、

「何を」創ることに注力すること、さらに授業改善を図ること、また、ICTを「ミソ」にせず、

ICT環境が変わっても、「主体的・対話的で深い学び」や個別に合わせた細やかな指導など、これまでの教育実践で大切にしていたことは何ら変わらないことがありま。ICTを「ミソ」にせず、

「何を」創ることに注力すること、さらに授業改善を図ること、また、ICTを「ミソ」にせず、

ICT環境が変わっても、「主体的・対話的で深い学び」や個別に合わせた細やかな指導など、これまでの教育実践で大切にしていたことは何ら変わらないことがありま。ICTを「ミソ」にせず、

「何を」創ることに注力すること、さらに授業改善を図ること、また、ICTを「ミソ」にせず、

「何を」創ることに注力すること、さらに授業改善を図ること、また、ICTを「ミソ」にせず、

「何を」創ることに注力すること、さらに授業改善を図ること、また、ICTを「ミソ」にせず、

「何を」創ることに注力すること、さらに授業改善を図ること、また、ICTを「ミソ」にせず、

「何を」創ることに注力すること、さらに授業改善を図ること、また、ICTを「ミソ」にせず、

「何を」創ることに注力すること、さらに授業改善を図ること、また、ICTを「ミソ」にせず、

「何を」創ることに注力すること、さらに授業改善を図ること、また、ICTを「ミソ」にせず